

事故予防・緊急時の対応(リスクマネジメント)

【事故予防】

★リスクの把握

- * 日頃からリスクを見逃さない観察力を持つ。

(例)・転倒・転落の危険はないか?・誤嚥の危険はないか?

・使っている物品に破損の危険はないか?

- * 常に自分の利用者のリスクについて考えて業務にあたり、小さなリスクでも事業所に報告してください。

⇒ リスクの解消が事故予防になります。

★ ヒアリハットを見逃さない

- * ヒアリハット事例を見逃さない観察力を持つ

ヒアリハットの時点で解決することにより事故予防になります。

【事故再発予防】

事故発生 ⇒ 事故報告 ⇒ 原因究明・再発予防策の検討 ⇒
⇒ ヘルパー全員への周知

【緊急時対応】

★ 状態の確認

1) 意識はあるか?

- ・ 患者の肩口を軽く叩きながら、耳元で呼びかけて反応を見る。
- ・ 呼びかけに応じない場合は手足をつねって反応を見る。

2) 呼吸はしているか?

- ・ 胸が上下に動いているか
- ・ 患者の鼻や口に頬を近づけて息が感じられるか?

3) 出血していないか?

- ・ 出血が止まらない
- ・ 多量の出血がある

4) 脈はあるか?

- ・ 頰動脈 または 手首に人差し指と中指を当ててみる。

★ とにかく事業所に連絡して状態を報告してください

★救急車を呼ぶ場合は・・・

① 119番に電話する

② 「消防署です。火事ですか、救急ですか?」⇒「救急です」

③ 「住所を教えてください」⇒「住所を答える。ヘルパーであることを伝える」

- ④ 「どうしましたか？」⇒「利用者のお名前は、〇〇〇様です。年齢は〇歳、
症状は・・・（できるだけ症状を具体的に伝える）」
- ⑤ 「あなたのお名前と電話番号を教えてください」⇒「ヘルプステーションところ
の〇〇〇です。電話番号は・・・（利用者宅の電話番号）」
- ⑥ 救急車が到着するまでにしておく手当てをたずね、指示通りにする。

★ 緊急時対応

- ① 意識がない ⇒ 気道確保
- ② 出血している ⇒ 止血
感染がないように必ず手袋かビニール袋で手を
保護する。
- ③ 吐き気・嘔吐がある ⇒ 吐物で窒息しないよう顔を横に向ける

心肺蘇生法(心臓マッサージと人工呼吸)

◆気道確保とは

空気の通り道である気道が空気を通しやすくなるよう姿勢を整えます。
→頭を後ろへ反らし、あご先をあげた姿勢にします。



1,臥位になっている対象者の横に位置し、足側の手の人差指と中指をあご先に当てます。

頭側の手は額に当てます。

2,あご先を2本の指で持ち上げながら、額を後ろに押し下げ頭を反らすようにします。

◆人工呼吸

対象者の口または鼻から直接空気を吹き込みます

1,気道確保した状態で額を抑えた手の指で対象者の鼻をつまみます。

2,対象者の口を救助者の口で覆うように当てます。空気が漏れないよう密着させます。

3,約1秒かけゆっくりと吹き込みます。その際は対象者の胸の動きを観察します。吹き込んだ際に胸が盛り上がり、肺に空気が入っています。腹部が膨らむようなら気道確保ができていない為、再度気道確保をしてから人工呼吸を行います。

※感染予防のため専用のマウスピースなどを使うと良いでしょう。感染の恐れが明らかな場合は人工呼吸は省略します。

心肺蘇生Ⅱ

◆心臓マッサージ(胸骨圧迫)

1,圧迫する位置は乳頭と乳頭間の胸骨上です。

2,圧迫部位に片方の手の手掌基部をあてその上にもう一方の手を重ねます。

3,肘を伸ばし胸骨に垂直に沈み込むように圧迫します。

圧迫の強さは胸が4～5センチ沈む程度です。



4,圧迫の速さは1分間に100回のテンポです。圧迫の解除は確実にを行います。

(2、3センチ沈んだ状態で圧迫を続けない)

5,30 回圧迫したら人口呼吸 2 回、これをワンセットで継続します。
※AED が到着する・呼吸が回復する・救急隊が到着するまで継続します。

気道異物除去(誤嚥した！)

◆気道とは呼吸の通り道です。そこに食べ物や異物が入って詰まると窒息し放置すれば死に至ります。

誤嚥のサイン: チョークサイン・声が出せない・顔色が真っ赤、真っ青

背部叩打法: 背中を強く叩き気道異物を取り除きます

- 1,対象者を深く前傾にし必ず下あごを突き出すようにします
- 2,対象者の肩甲骨の間を手掌基部(手の付け根)で強く迅速に叩きます。



ハイムリック法: 上腹部を斜め上方に圧迫し気道異物を取り除きます

- 1,対象者の後ろに回り両手をわきの下から通してへそとみぞおちの中間部へ当てる
 - 2,手は片方をこぶしにしそれをもう片方の手で握ります
 - 3,対象者と体を密着させてすばやくこぶしを斜め上方に引き上げます
- * みぞおち近くにこぶしを当てると肋骨を骨折したり剣状突起で内臓を傷つける恐れがあるので注意しましょう



止血の方法

◆人間の全血液量は体重 1Kgあたり約 80mlです。全体の約 1/3 の血液を急激に失うと生命に危険を及ぼします。

直接圧迫止血：出血部位を直接強く圧迫して止めます

1, 圧迫する物は清潔で厚みがあり出血部位を十分に覆えるものを選びます（ガーゼやタオル、ハンカチ、何枚か重ねても良い）

2, 出血部位に当て物をあてその上から強く圧迫します。出血が止まるまで圧迫します。

※感染予防のため、直接血液に触れないようゴム手袋をはめたりビニール袋で手を覆って行いましょう



火傷の応急処置

◆火傷の重傷度は範囲や深さ年齢により異なりますが、高齢者の場合は体表面積 10～15%でも命に危険を及ぼします。

1, すぐに流水で冷やします。衣類は無理に脱がせず衣類の上から冷やします。

2, 流水を直接患部に当てると悪化させる恐れがあるので、洗面器などに水を流してそこに患部を浸ける、タオル等で患部を保護して流すなどします。

3, 衣類が患部に張り付いている時は無理して剥がさないようにし、冷やした状態ですぐ医療従事者に引き継ぎます。

※患部以外の体は保温します。



回復体位

◆倒れている人を発見し、反応は無いが呼吸がある場合は回復体位を取って救急隊を待ちます。また、呼吸が無く心配蘇生法を施した後に呼吸が出現した場合も同様です。

<ポイント>

- ・呼吸が妨げられないようにする体位なので頭部を後屈させ、あごを突き出します。
- ・嘔吐した場合にも外に流れ出るように体を横にし、口元を床に向けます。
- ・長時間回復体位にするときは、血液の循環が悪くなるのを防ぐため、約30分おきに反対向きの回復体位にします。
- ・状況に応じ、毛布をかけるなどして保温しましょう。
- ・ベルトやボタンなど体を締め付けるものは外しましょう。

